

映画「教育と愛国」

町のパン屋さん「納得できない」

2月11日、高知県立美術館で「教育と愛国」の映画上映がありました。

「教育と愛国」は、毎日放送報道情報局ディレクターの齊加尚代(さいか ひさよ)さんが監督で、教科書問題など20年以上取材を重ね、教育と政治の関係に迫ったドキュメンタリー映画です。2006年、第1次安倍政権下で教育基本法が改変され、「愛国心」が戦後初めて盛り込まれて以降、「教育改革」「教育再生」の名のもとに、政治の圧力が高まって来ている教



「教育と愛国」の齊加尚代監督

育現場の実態(現在の小学校の道徳の教科書、教科書検定制度、慰安婦問題など加害の歴史を教える中学校教師や大学研究者へのパッシングなど)が各関係者へのインタビューも通して映し出されています。思わず「えっ」と声が出て、驚愕し怖さも感じる事柄がたくさんありました。

教科書検定では、小学1年道徳の教科書(東京書籍)で、友達の家のパン屋の設定が、検定後、和菓子屋に変更になったということ。理由は、学習指導要領の「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」に照らして、扱いが不適切とされたそうです。町のパン屋さんたちからは「納得できない」という声が相次いで寄せられたそうです。

日本書籍の中学歴史教科書では、2001年版で慰安婦問題や戦争加害について取り上

げました。日本書籍の教科書は、それまで東京23区すべてで採用されていましたが、採用が激減し、2004年に会社は倒産となりました。同じ頃、1997年に「新しい歴史教科書をつくる会」が発足し、2001年にこの「つくる会」の教科書が誕生しています。「つくる会」は、従来の歴史教科書を「自虐史観に基づくもので日本を貶(おとし)める」とアピールしていました。

「つくる会」から分かれてできた2007年設立の「育鵬社」は、教育勅語を国民の道徳の基盤になったと肯定的にとらえているそうです。その教科書代表執筆者である伊藤隆さん(東京大学名誉教授・歴史学者)へのインタビューで、彼は「日本の侵略主義の基本になったのは、教育勅語だ」というのは絶対間違い、育鵬社の教科書が目指すものについて「左翼でない、反

日でない、ちゃんとした日本人を作る」と、歴史から何を学ぶべきかについては「学ぶ必要はない」、安倍政権を高く評価し、「最終的には憲法改正をしないといけない。すぐ目の前に敵がいる」などと答えていました。

2021年4月、政府が教科書の言葉遣いへの直接介入を始め、閣議決定をしました。「従軍慰安婦」と「強制連行」を不適切な言葉だとして、「慰安婦」戦

植木枝盛墓前祭「無天忌」

墓前と高橋さんの尺八の音

時動員、または徴用、連行」に書き換えを暗に促しました。命令では責任が政府になるので、出版社に「訂正申請」の手続きをさせて、責任の所在を出版社側にしたので。

この20数年の流れで、政治の教育への圧力や介入と考えることについて知ることができ、勉強になりました。若い人をはじめ、多くの人がこの映画を見る機会が増えればよいと願います。(宮地由美)

2023年の「無天忌(植木枝盛墓前祭)」が2月15日に行われ、毎年1月23日の命日に開催していましたが、当日があいにくの雨だったため変更して開催となりました。高知市立自由民権記念館友の会の主催。

当日は、県立大学教授ヨースシヨエルさん、大逆事件の犠牲者岡林寅松の子孫の徳弘達男さんなど12名が参加。

墓前を清掃した後、高退協の岡崎清恵さんの般若心経に続いて、高退協の高橋哲也さん(都山流尺八楽会大師範)の吹く尺八での古典本曲「手向(勢州伝)」の音色が墓前に流れました。

「無天忌」は1984年に、植木枝盛の忌日1月23日を記念し、植木枝盛を追悼、彼を継承し、業績を研究することを立案して「無天

忌」と命名して開催し、1991年の第8回開催まで続き、植木枝盛百回忌で終了してしました。その後、自由民権記念館友の会が、墓前祭として引き続いて開催しているものです。

また当日は、高知市立自由民権記念館民権文化財課の木下課長さんにも、「植木枝盛の墓」まで急な坂を安全に下りるための対策の検討に参加して頂きました。友の会会員・高退協の岡崎清恵さんの強い要望(高知市総務部への要望)が実現した形でした。実現までには時間がかかりそうですが、一歩前進です。(友の会会長・岡林登志郎)

